

2022年度 三つのポリシーのアセスメント結果について（2021年度実績）

（1）学部

学部のアドミッション・カリキュラム・ディプロマの3つのポリシーに関して、予めアセスメントポリシーで定めた基準に照らし、入試結果や外部アセスメントテスト、GPAや単位修得状況、各種アンケート、進級・卒業判定の結果等、学修成果についての検証をエビデンス（2021年度資料）に基づいて行いました。

入試結果やGPA、修得単位数、進級率など、大半の項目において設定した基準を達成しており、教育の質を担保できているものと判断できます。

特に卒業予定の4年次生に対して行った「卒業予定者アンケート」や、卒業後3年経過した卒業生に対して行う「卒業生アンケート」においては、「入学してよかった」が95%近く、「ゼミ担当教員との良好な関係ができた」「大学に対する総合的な満足度」が90%以上と高い数値を示しており、大学に対する満足度が非常に高いことから十分に質保証ができていると考えられます。

課題であった現役卒業率は、基準にはわずかに届きませんでした。年々上昇を続けており、改善の兆しが見えています。また、外部アセスメント（GPS-Academic）によって検証している読書量や学修時間、思考力についても、わずかではあります。改善傾向にあり、個々の授業における取組が効果をもたらしていると判断できます。

今年度の検証結果をもとに、次年度に向けた評価項目並びに測定基準の見直しを行い、適切なPDCAサイクルの運用を通じて、継続的な改善に取り組んでいきます。

（2）大学院

大学院においても予め設定したアセスメントポリシーの基準に基づいて検証を行ったところ、GPAや修得単位数、休退学率、授業アンケートの結果など概ね設定した基準を満たしており、目標を達成していると判断できます。「修了者アンケート」におけるカリキュラムに関する満足度について、「強くそう思う」「そう思う」の肯定的意見が全ての項目において100%であったこと、身についた力においても8項目中7項目で肯定的意見が100%となっていることから、教育の質を保証できていると判断できます。

さらに、就職率は100%（進学者除く）と高く、キャリアサポートについても十分行き届いていると判断できますが、修了予定者5名のところ実際に修了となった者は3名と60%に留まりました。

また、博士課程後期課程への進学者、入学者が少ないことが長年続く大きな課題であり、同課程の定員充足率並びに博士の学位取得者を増やすことが、大学院教育の充実や質の保証を担保するために必要な要素であると考えられます。今後も研究者養成コースの充実、発展に向けて、評価項目や測定基準の見直しと充実を図り、本研究科の教育・研究内容の改善に活かすことを目標に取り組んでいきます。